

## 授業概要

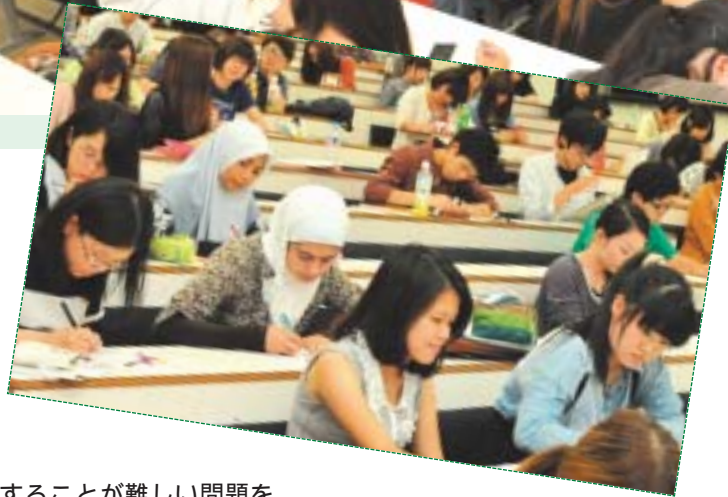
世界や日本において、地球市民社会や国際NGOの役割が大きくなっています。「地球市民社会論」では、地球市民社会を取り上げ、その概念、特徴、起源と歴史、発展の流れ、先進国・途上国・日本の地球市民社会について論じ、地球市民社会の基礎と実践を理解することを目標としています。

# Welcome to 授業



## 学生から

将来、グローバルな視点で物事を考える仕事に就きたいと思っています。海外に出たとき、その国の文化や宗教の違いを理解していなければうまくやっていけませんし、国



## 教員から

21世紀を生きている人類は、開発と環境破壊、人権の侵害、平和と戦争、宗教と文化対立といった地球規模の問題に直面しています。これらの問題を解決するために、いま、

家（政府）間のレベルでは解決することが難しい問題を、市民レベルで理解、協力し合うことで解決していこうとする地球市民社会の考え方を学ぶことができます。

この授業では、市民レベルで自分たちが何をすれば世界平和につながるのか、世界の貧困の問題を解決することができるのか、を考え学ぶことができます。

国際文化学科1年 高田 光紀

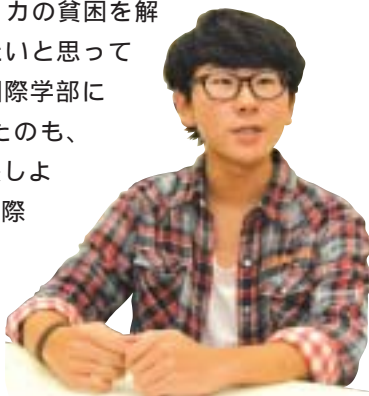


私は、将来、アフリカの貧困を解決する活動に携わりたいと思っています。宇都宮大学国際学部に入学することを決めたのも、アフリカの貧困を解決しようとしている先生が国際学部にいるからです。

実際にNGOで活動したいと思っていますので、NGOの成り立ちや意義、役割などを学べるこの授業は、自分にぴったりの授業です。

重田先生の授業は他にも受けているのですが、重田先生自身、実際にNGOで活動した経験があって、その時の話が聞けて、とても参考になっています。自分にもできるかな、と思いながら勉強しています。

国際社会学科1年 大平 太



「地球市民社会」の役割が注目されています。

地球市民社会とは、発展途上国の現場へ人道支援や開発支援を行う国際NGOや市民団体などで、「共生のための世界を目指す市民社会」のことです。そして、「市民社会」とは、NGO・NPO、協同組合、大学など教育関係機関、社会福祉団体、市民運動団体など非政府・非営利セクターに入る団体です。政府（国家）＝第1セクター、企業（市場）＝第2セクターと並ぶ重要な第3のセクターになっています。

欧米に比べると日本の第3セクターの存在感は、まだまだ小さいですが、阪神淡路大震災、東日本大震災を機に、市民（社会）のボランティア活動、救済活動が活発に行われるようになり、政府や企業からも独立した市民社会、第3セクターの存在感は高まってきています。

この授業では、地球市民社会が地球規模の問題の解決を目指す重要な担い手であることを理解していただきたい。学生自らが、世界や日本の市民社会の構成員であることを認識し、将来、NGOやNPOを含めた市民社会を支える担い手になってもらいたいと考えています。

国際社会学科  
教授 重田 康博



国際学部

地球市民社会論